3.気管支喘息患者の急性発作時における血清ECP値の変動について

東京医科大学第三内科
小林真人　新妻知之　林徹

Eosinophil catinoic protein（以下ECP)は、好酸球の特異顆粒内に含有される組織障害性蛋白の一つで活性化した好酸球から脱顆粒により遊離され、血清中のECP濃度について気管支喘息の病勢を反映し把握する上で有用な指標とされる。今回我々は、気管支喘息発作を生じ来院した気管支喘息患者について血清中のECPや末梢血中の好酸球、呼吸機能、喘息点数等を測定し気管支喘息発作時の治療や経過観察における臨床的有用性について検討した。結果　血清ECPは、血清好酸球数については有意差を認めたが、%FEV1.0とPEFRについては有意な差を認めなかった。血清中のECPは、気管支喘息患者における発作予後を判定する上で指標となる事が示唆された。

5.自己免疫疾患患者における70kD heat shock protein (hsp) に対する自己抗体の検討

(内科学第三) 楠　芳恵，坪井紀興，林　徹，

［目的］70kD heat shock protein (hsp70) は結核菌hsp60と異なり、その自己免疫疾患における病的意義は明らかにされていない。そこで我々は、自己免疫疾患患者血清中のヒトhsp70に対する自己抗体の検討を行った。

［方法］慢性関節リウマチ (RA)、全身性エリテマトーデス (SLE)、進行性全身性硬化症 (PSS)、健常人 (HC) に加え、様々な背景を持つ抗セントロメア抗体陽性患者群について、血清中抗hsp70抗体をイムノブロッティング法により検討した。抗原はHeLa細胞より精製したヒトhsp70を使用した。

［結果］血清中の抗hsp 70抗体陽性率は、RA2/50 (4%), SLE1/50(2%), PSS1/17(6%),HC1/50(2%)と低率であったが、抗セントロメア抗体陽性患者群では12/25 (48.0%)と非常に高率であった。

［考察］抗hsp70抗体と抗セントロメア抗体の出現に何らかの関連性が考えられた。

4　ステロイド外用剤の交差性についての検討

(皮膚科学教室)　大井綱郎、平田雅子
小林早由美、古賀道之

ステロイド外用剤によるアレルギー性接触皮膚炎はまれな疾患であるが、他の外用剤との交差性があることが知られている。顔面の皮疹に使用したLocoid®軟膏により感作された20歳の女性を経験し、その主剤であるhydrocortisone butyrateによるアレルギー性接触皮膚炎であることを確認したあと、他の外用ステロイド剤について検討したところ、hydrocortisone butyrate propionate、prednisolone valerate acetate、budesonide、さらに新たに合成したステロイドであるprednisolone－17－propionateでも陽性となった。これら一群のステロイドの構造を検討すると、ステロイド核D環の16α位がfreeかまたはなりやすい構造で、17α位の側鎖による立体空間の長さが感作成立に重要であると推論できる。その後もこの推論を裏付ける症例を経験しており、ステロイドの交差性には一定のメカニズムがあると思われた。

6.　熱ショック蛋白heat shock protein (HSP60) とぶどう膜炎

眼科学教室
田中孝男　山川直之　臼井正彦

目的：ベーチェット病を代表とするぶどう膜炎の発症機構は原因不明だが、腸管型ベーチェット病では熱ショック蛋白60 (HSP60) が発症に関与するとの報告がなされた。ぶどう膜炎でもHSP60の関与が予想され、その関連性を検討したので報告する。

方法：ELISA法で抗体価を測定し、western blot法にてHSP60を泳動し、患者血清と反応させ抗体を検出した。また網膜抽出液を泳動し抗HSP60抗体と反応させた。

結果：患者群では抗HSP60抗体は高価を示した。western blot法で、患者血清はHSP60と網膜はそれぞれ60KD付近で反応した。

結論：HSP60と網膜には共通の抗原性があった。患者血清中の抗HSP60抗体はヒト網膜にも反応し自己抗体と考えられた。ぶどう膜炎の発症にHSP60が関与するのではないかと考えられた。